

令和4年度 藤沢市下水道事業 決算の概要

雨水の排除による浸水の防除、公共用水域の水質保全及び生活環境の改善等を図るため、下水道の整備及び維持管理を行いました。主な整備内容としては、長寿命化を図るための管渠更生工事、大庭ポンプ場沈砂池設備改築機械工事などを実施しました。また、アセットマネジメントの運用に向けては、段階的な導入作業として、中長期課題に対応したふじさわ下水道ビジョン（長期方針）及びふじさわ下水道中期経営計画（短中期）を策定するとともに、ストックマネジメント計画に基づいた点検・調査及び修繕・改築工事を実施しました。その結果、市民の安全かつ快適な生活の維持・向上が図られました。

令和4年度決算のポイント

	令和4年度決算	令和3年度決算	
経常収支比率	104.25%	106.99%	前年度と同様に100%以上を維持しました。
流動比率	77.49%	73.05%	前年度比で向上しました。
企業債残高対事業規模比率	381.77%	397.70%	前年度比で向上しました。
経費回収率	94.33%	101.14%	電気代高騰などの影響により100%を下回りました。
一般会計繰入金	43億円	42億円	負担区分に基づく適正額を維持しています。
企業債残高	424億円	444億円	企業債の償還が進み、前年度より減少しました。

（参考）

令和4年度に「ふじさわ下水道中期経営計画」を策定し令和5～14年度の経営計画目標を設定しました。

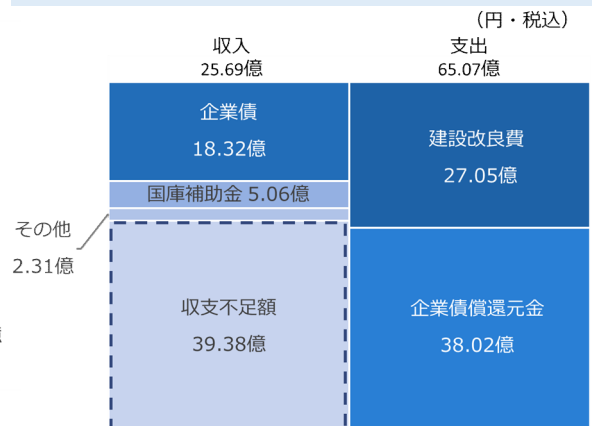
【安定性】 ③流動比率を100%に近づけます 1年以内に支払うべき債務に対し支払う現金等がある状況を示す100%以上が必要。下回る場合は、1年以内に現金化できる資産で負債を賄っておらず、支払能力を高める経営改善を図る必要があります。
【独立性】 ⑤経費回収率100%以上とします 使用料で回収すべき経費を、どの程度賄えているかを示す100%以上が必要。 一般会計繰入金は負担区分に基づく適正額を維持します 規則で一般会計が負担すべき経費を定めており、「雨水公費、汚水私費の原則」に基づき、雨水処理の経費は一般会計で負担しています。今後も、受益者負担と一般会計負担とをより明確にすることで、適正な額の負担を求めつつ、特定財源の確保や事業費の縮減等による経営努力を図ります。
【持続性】 ④企業債残高対事業規模比率を350%以内に抑制します （企業債残高では555億円を上限目安とします） 「企業債残高対事業規模比率」の状況を見極め、必要な投資を行うとともに、将来に過大な負担を残さないよう長期的な視点を持って借入額を抑制します。

「ふじさわ下水道中期経営計画」から抜粋

収益的収支及び資本的収支の状況

収益的収支：維持管理に関する収入支出

資本的収支：建設改良に関する収入支出

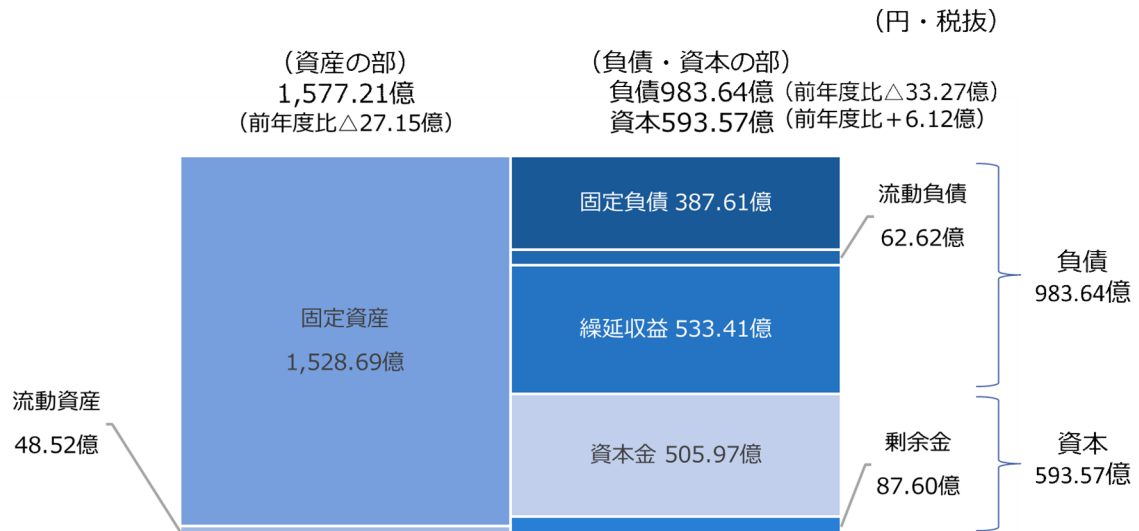


収入122.40億円、支出117.39億円となり、純利益は5.01億円となりました。

収入25.69億円、支出65.07億円となり、39.38億円の収支不足が生じました。この不足額については、損益勘定留保資金などで補填しました。

貸借対照表

期末における財政状態（資産、負債、資本の状態）を示します。



貸借対照表からみると、資産は前年度と比較すると27.15億円減少しており、老朽化が進行していることがわかります。

【有形固定資産減価償却率（％）】

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標です。

$$\text{有形固定資産減価償却累計額} \div \text{有形固定資産のうち償却資産の帳簿原価} \times 100 = 56.67 (\%)$$

(前年度比+1.25%)

キャッシュ・フロー

キャッシュ : 貸借対照表における現金及び預金

キャッシュ・フロー : キャッシュの流れや増減のこと

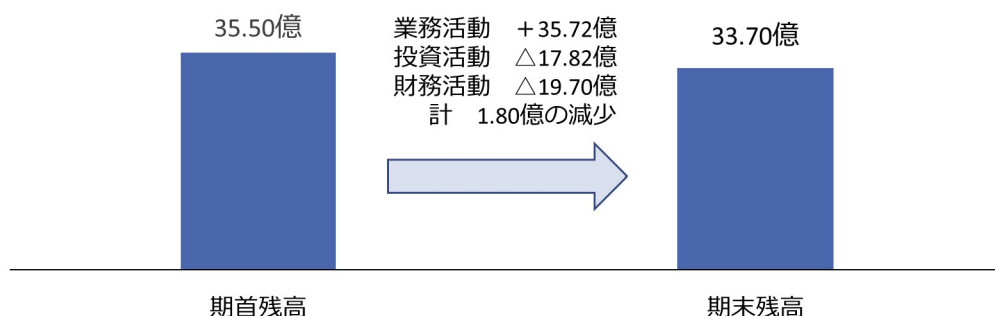
令和4年度は、業務活動で35.72億円のキャッシュを生み、投資活動で17.82億円、財務活動で19.70億円の合計37.52億円のキャッシュを使用した結果、1.80億円のキャッシュが減少しました。その結果、令和4年度末のキャッシュ残高は、期首残高35.50億円から1.80億円減少し33.70億円となりました。

(キャッシュ増減の理由)

①業務活動によるキャッシュフロー：地方公営企業の通常の業務活動の実施による資金の増減
→下水道使用料等による営業収入が営業費用を上回ったことによるものです。

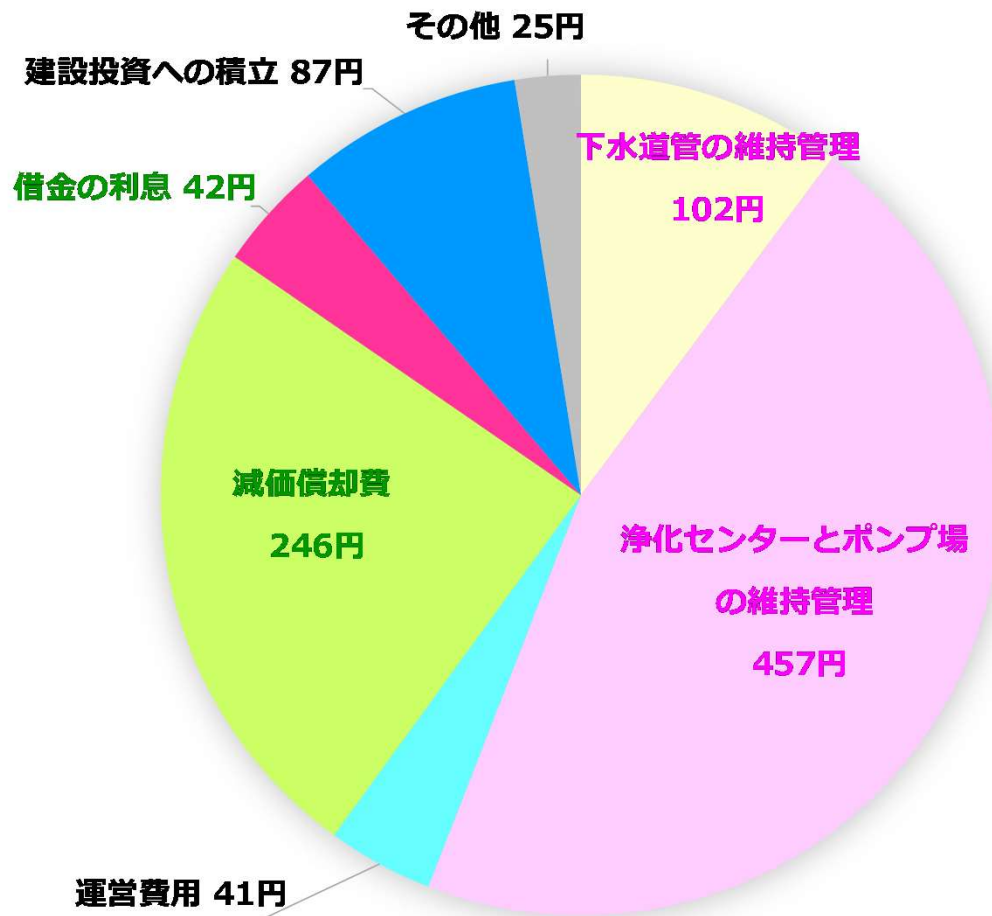
②投資活動によるキャッシュフロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動による資金の増減
→固定資産の取得による支出が、国庫補助金などによる収入を上回ったことによるものです。

③財務活動によるキャッシュフロー（資金調達（借入・返済）による資金の増減）
→企業債の償還による支出が、企業債の借入による収入を上回ったことによるものです。



下水道使用料1,000円あたりの使い道（令和4年度決算）

下水道使用料1,000円の使い道の内訳は、次のグラフのとおりになります。



下水道管や浄化センターなど下水道施設の**維持管理費**や、減価償却費、借金の返済利息など**過去の投資に係る費用**が大部分を占めています。

維持管理費の主なものは、電気代や下水道施設の運転管理費、老朽化に伴う調査・修繕費などです。



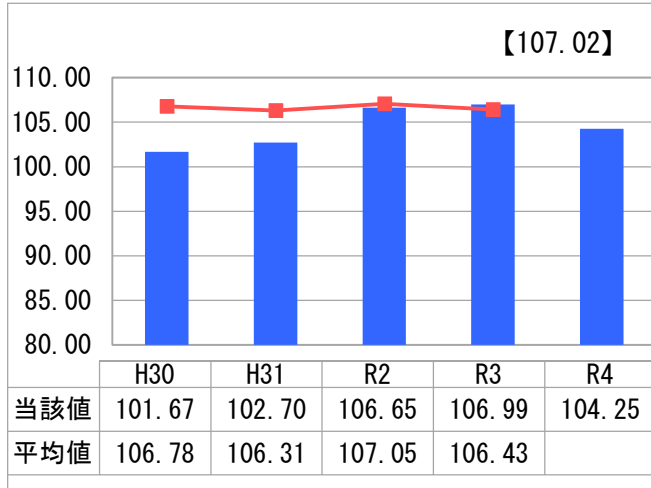
経営指標の推移

令和4年度の平均値（類似団体平均値）は、現時点で未公表のため空欄となっています。

グラフ凡例

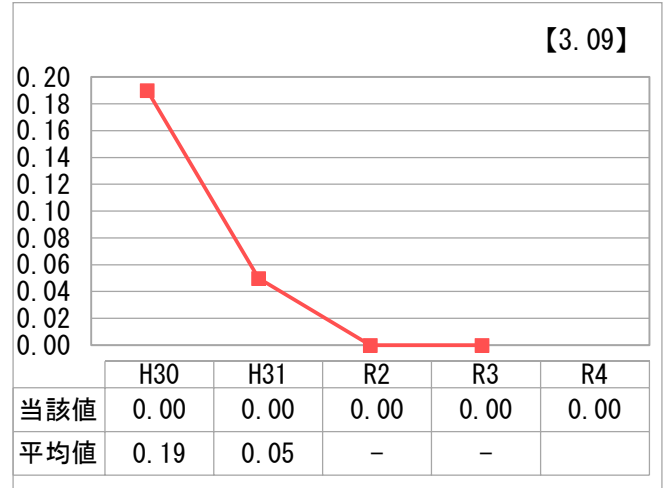
- （棒グラフ） 当該団体値
- （折れ線グラフ） 類似団体平均値
- 【 】 令和3年度全国平均

① 経常収支比率(%)



当該年度に収益で費用を賄えているか

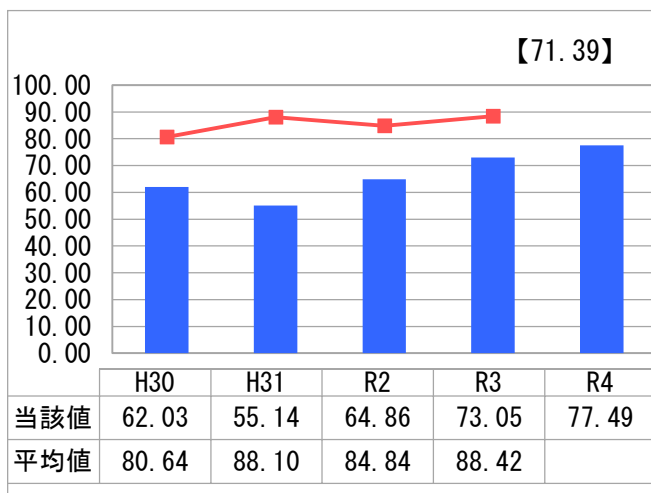
② 累積欠損金比率(%)



営業収益に対する累積欠損金の状況

① 経常収支比率は100%を上回り、② 累積欠損金比率は0%であることから、経営の健全性は保たれています。

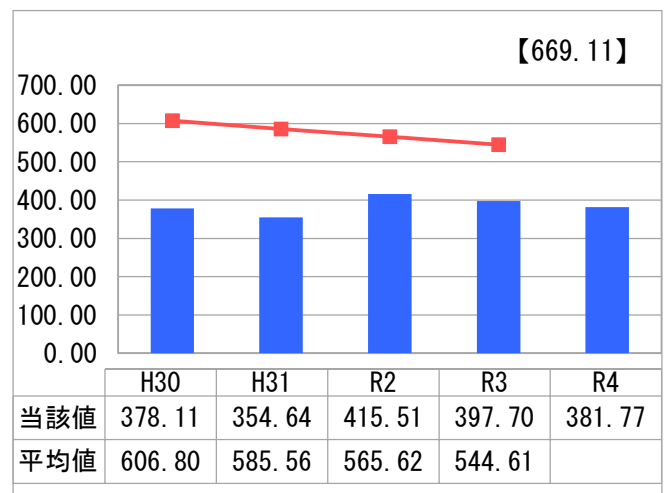
③ 流動比率(%)



短期的な債務に対する支払い能力

上昇傾向にあります。流動資産の未収金が増加したこと、また高利率の企業債が償還終期となり流動負債が減少したことによるものです。

④ 企業債残高対事業規模比率(%)



使用料収入に対する企業債残高の割合

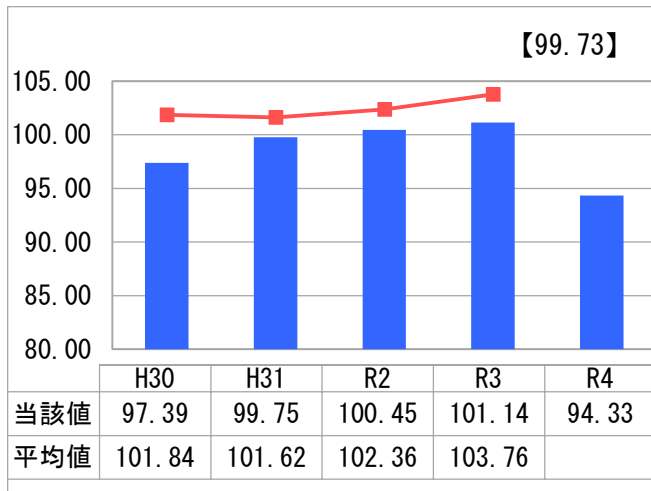
大口の企業債が償還満期を迎え、年々企業債残高は減少しています。今後は進展する老朽化に対応するため、更新投資が見込まれることから、長期的な視点を持ち借入額の抑制に努めます。

令和4年度の平均値（類似団体平均値）は、現時点で未公表のため空欄となっています。

グラフ凡例

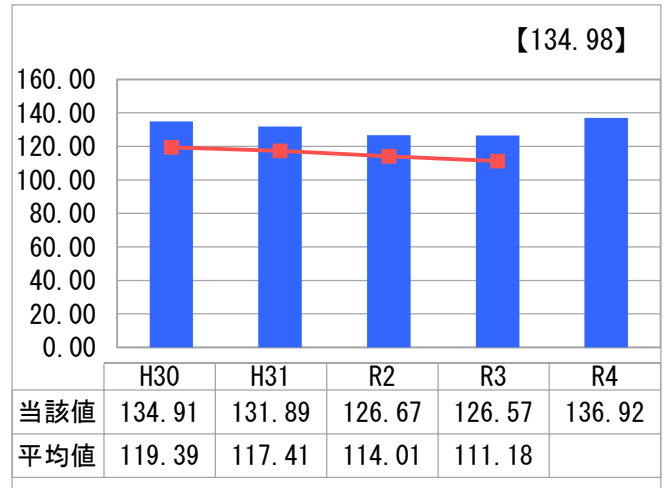
- （棒グラフ） 当該団体値
- （折れ線グラフ） 類似団体平均値
- 【 】 令和3年度全国平均

⑤経費回収率(%)



下水道使用料で回収すべき経費をどの程度賄えているか

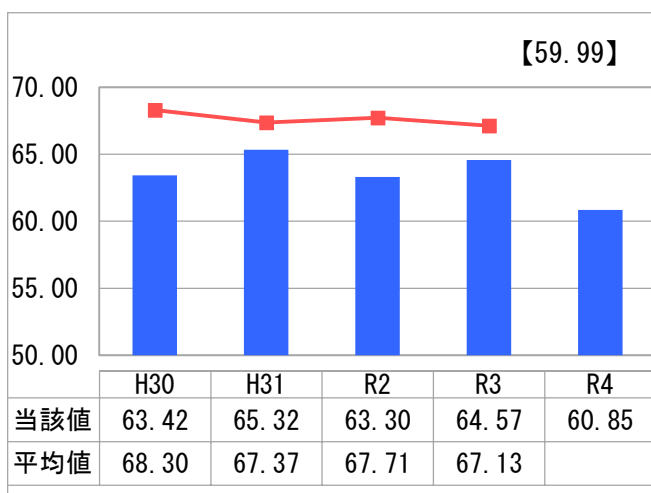
⑥汚水処理原価(円)



有収水量 1 m³あたりの汚水処理費

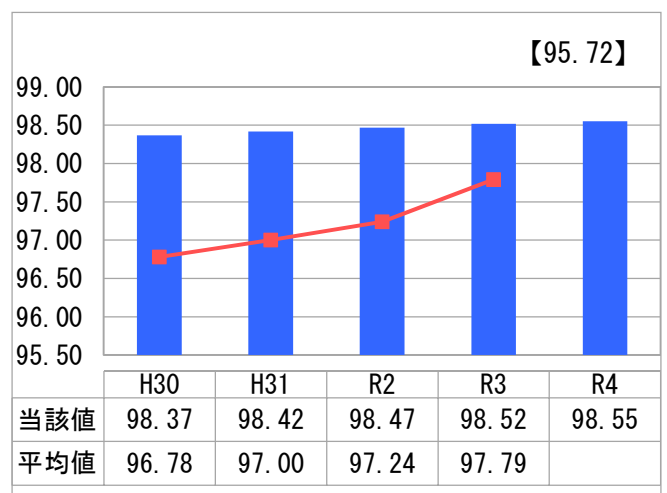
⑤経費回収率は100%を下回りました。電気代の高騰及び修繕費用の増加により、⑥汚水処理原価が上昇したためです。

⑦施設利用率 (%)



施設利用状況や適正規模を判断

⑧水洗化率(%)



水洗便所を設置し汚水処理をしている人口割合

⑦施設利用率は、類似団体平均値と同程度で推移しています。季節により処理量に大きな変動があることから、能力不足が生じないよう対応できる処理能力を確保する必要があります。

⑧水洗化率は、上昇傾向にあります。処理区域内の戸数と、水洗便所設置済み戸数はいずれも昨年度と比べて増加しています。